

News Letter

日本ホリスティックナーシング研究会ニュースレター 第13号
from Japanese Holistic Nursing Association (JHNA) Vol.13 2016

body (体) mind (心) spirit (魂) 全人的看護をめざして

第19回 JHNA 研究会(東京)ご報告

第4回 ベーシックセミナー

(認定制度検討委員会主催)

於 日本赤十字看護大学

平成28年2月13日日本赤十字看護大学にて、第19回日本ホリスティックナーシング研究会(第4回ベーシックセミナー)が開催されました。今回は30余名の参加者が集い、米国のホリスティック・ナーシング協会認定テキストの第33章「ホリスティックナーシングと研究」と、第35章「未来のホリスティックナースの教育」について学びました。

「ホリスティック・ナーシングと研究」については、田中久美子氏(神奈川県立がんセンターOCNS)により

翻訳とプレゼンテーションが行われました。ホリスティック・ナーシング研究の現状を知るとともに、ホリスティック・ナーシングに影響を与える思想や概念、さらにはホリスティック・ナーシングの研究方法について学びました。私たちが通常使っている caring や healing、spirituality といった言葉についても曖昧にせず、定義することの重要性も学びました。また「未来のホリスティックナースの教育」については、荒川唱子氏(福島県立医科大学名誉教授)より翻訳とプレゼンテーションが行われました。効果的な看護実践に不可欠なホリスティック・ナーシングの重要性の認識が高まってきた中で、新卒ナースに必要な能力として、Patient-focused care(患者や家族に焦点をあてたケア)、Teamwork-collaboration(チームワークと協力)、Informatics(情報科学)、Safety(安全)、Quality improvement(質の改善)、Evidence-based practice(根拠に基づく実践)の6つが挙げられ、その教育の必要性を学びました。

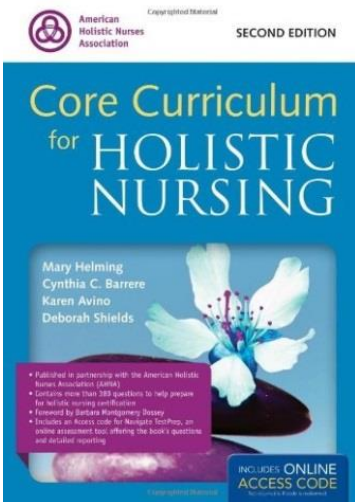
参加者は熱心に聴き入り、講演の後には活発なディスカッションを交わしました。

←テキスト: Helming, M., Barrere, C. (2014): Core Curriculum for Holistic Nursing, 2nd Ed., Jones & Bartlett Learning



川原由佳里氏

田中久美子氏



参加者の声

「ホリスティック・ナーシングと研究」を受講して

松原昌代氏(国立がん研究センター)

ホリスティックナーシングを研究するという事は、それが科学になりうるかという問い自体への挑戦でもある。

人は本来普遍的なものではなく、個人の言葉や感性を介して物事を認識し、その認識を通して社会と関わっている。一人一人の人生が抱えるものが異なる以上、その物語に寄り添い全人的に関わることは様々な形で作用し、その反応もまた様々である。よって、そもそも感度や信頼性の高いデータをとることは難しく、更にそれを比較してみたところで意味をなすのか、とこれまで疑問に思っていた。



しかしながら今回田中先生の講義を受け、いくら素晴らしさを滔々と語り続けてもその積み重ねはデータにはなり得ず、偶然や奇跡と思われた瞬間に恩恵を受けられる人がその機会を奪われてしまうであろうことを強く感じた。多くの人の健康に貢献するためには、研究の直面する困難・限界の中にあっても、まずは安全性、そしてそれなりの信憑性を付与する努力を放棄してはならない。この長い道のりに時に挫けそうになるときには、ご紹介いただいた NCCAM ディレクター Dr. Margaret A Chesney の言葉を何度でも胸に刻み直そうと思う。「あなたのチャレンジするものに対し、慎重に大胆に信念を持って立ち向かってほしい。あなたの目的の中にコミットメント、革新、勇気を表現してほしい。あなたは包括的ヘルスケアに貢献する一部分である。」



「ホリスティック・ナーシングと研究」 「未来のホリスティック・ナーシングの教育」を受講して

伊藤明美氏（郡山看護専門学校看護学科学科長）

2月23日に広尾の日本赤十字看護大学の教室を会場に行われた、ベーシックセミナーでは、米国ホリスティック・ナーシング協会認定看護テキスト第33章と第35章のプレゼンテーションが行われました。

田中久美子先生による第33章のプレゼンテーションの内容は、「ホリスティック・ナーシングと研究」ということで、ホリスティック・ナーシングの研究の現状と、研究の課題と将来への期待について述べられていた。ホリスティック・ナーシングの研究の現状として、「目には見えないけれど経験されている証明が困難なもの」と「目に見えて証明できるもの」との間で議論が繰り返されている。時として神秘的かつ抽象的であり、「私たちが扱うたくさんの概念は、まだぼんやりとして定義しがたい。」と言っている。しかし、看護の臨床の場で扱う限り、それらの安全性や有効性を証明していかなければならない。さらに、ホリスティック・ナーシングの研究方法について、瞑想法での脈拍測定やガーデンウォーキング療法の血圧・脈拍測定、リラクゼーション効果を測るリラックス反応の測定などの量的研究、ナラティブなど出されている質的研究などが紹介されていた。

ホリスティック・ナーシング研究は、ホーリズムを基盤とした統合性・全体性のような理論や概念枠組みの中で行わなければならない。そして、今後、言葉の定義、時間の経過、人生経験・環境要因、文化的背景、個々の関係性の影響など、たくさんの研究が直面する困難さがあるが、Dr. Margaret A. Chesney, Director



荒川唱子氏

of NCCAM は、「…これからあなたがチャレンジしようとするものに対して、慎重に、大胆に、そして信念を持って立ち向かってほしい。…」と提言していた。第1章のインテグラル・ナーシング理論の曼陀羅のように、全体性で捉えることの重要性を改めて考える機会となり、今後の私たちの研究活動への示唆となった。

荒川唱子先生による第34章のプレゼンテーション内容は、「未来のホリスティック・ナーシングの教育」という事で、看護学生にどのように指導をしていけば良いのかに焦点を当てたものと、ナースのための質安全教育について定義されている。

ナースの能力として必要な、チーム協力、質の改善、科学的根拠に基づいた実践など「6つの質と安全教育」があげられていて、それぞれについて定義され、今後の臨床でのあり方を示していた。その中でも「ナースは一般的なCAM（補完代替）療法を知っているべきである。」という事と、「QIプロセスに従事するナースは、すばらしい患者ケアを提供するのに重要である。」という事では、個人的意見であるが、今後のホリスティック・ナーシング研究会の認定制度を考えるうえで、知識や技術の習得のためのプログラムの中に含めていくべき内容であると感じた。





ディスカッションと発表

田中晶子氏 (昭和大学保健医療学部)



グループ討議

当研究会のベーシックセミナー後に1グループ6名程度のメンバーで1) ベーシックセミナーの内容について、2) 認定制度について、3) これからのホリスティックナーシング研究会についてグループワークを行い、討議後各グループで話し合われた内容を発表しました。短時間の中で中身の濃いディスカッションが行われました。その中で印象に残った発表は、セミナーで使用した言葉が難しかった。看護では全人的教育を教えているが、あえてホリスティックナーシングを取り上げているのは何故

かという発言でした。具体的な手技を獲得するには基礎的な理論や概念についての理解が必要であり、その理解を深めるためのセミナーになっているので難しさを感じたのではないかと思います。また日常のケアの中ではホリスティックという考えを意識せずに通りすぎています。この研究会であえて立ち止まり、意識し、表現していくことで、日本独自のホリスティックナーシングの在り方を考えることになり、このことが今後の認定制度に反映されるとより質の高い認定看護師を輩出できるのではないかと考えました。研究会に参加された皆様と討議することで、この研究会の主旨を再確認する機会となりました。ありがとうございました。



発表と全体討議



第35回日本看護科学学会 交流セッション報告 (2015年12月6日 広島)

テーマ：ホーリズムを基盤とした看護観の育成と実践について探求する

小坂橋喜久代、荒川唱子、守田美奈子、田中久美子、宗定水奈子、柳奈津子、小山敦代
川原由佳里、相原由花、本江朝美、定方美恵子、小濱優子、竹林直紀

私たちは、人間を身体面、精神面、社会面さらには霊的側面から総合的にとらえるとともに、その人が、社会・自然環境の中で調和的に存在すること、生命の資質を十分に生かし、良い時間を手にして生きていけることを目指したケアを提供するホリスティック看護を探究しています。



交流セッションでは、50人以上の参加者を迎え、「なぜ、ホーリズムからのアプローチが必要なのか(小坂橋喜久代氏)」、「ホリスティックナーシングの哲学と理論(川原由佳里氏)」、「ホリスティックナーシングのコミュニケーション(宗定水奈子氏)」、「ホリスティックアロマセラピー(相原由花氏)」、「海外におけるホリスティックナーシングの活動(田中久美子氏)」について各演者から話題提供がなされ、会場は熱い拍手で湧きました。



第30回日本がん看護学会 交流セッション報告 2016年2月21日(幕張)

テーマ:ホーリズムを基盤とした看護観の育成と実践について探求する がん患者の<生き-死ぬ>に向き合う実践力を培うために



守田氏

小板橋喜久代、荒川唱子、守田美奈子、田中久美子、宗定水奈子、柳奈津子、小山敦代、川原由佳里、相原由花、本江朝美、定方美恵子、小濱優子、竹林直紀

<生きて死に向かう>人間の生の営みに向き合うには、一人一人の看護師自身の資質が重要な要因になる。そのためには自らがホリスティックな存在であることを追求する姿勢を持たなくてはならない。

がん医療と看護の現場で、日々がん患者の<生き-死ぬ>に向き合っている多くの方々にご参加いただき、守田氏の司会のもとで会が進行しました。荒川氏による「がん看護とホリスティックナーシング」についての話題提供では、一瞬にしてその場で起きているすべてを見極めるナースの優れた直観力が、患者・家族のニーズを満たし、希望と感謝をもたらすであろうと語られ、参加者の心に強く響くとともに、ホリスティック看護への期待が高まりました。また小板橋氏による「マインドフルネスの理論と実技」では、小板橋氏の誘導により、今ここに居る自分に集中し、自分を大切に



する心地よさを体験することができました。ナース自身が癒されることは、患者に向き合い、人間-生命の価値を大切にしながらがん看護に繋がることを、ひとりひとりが胸に刻み込み、盛会に終わりました。

小板橋氏の誘導により瞑想する参加者の方々

第20回日本ホリスティックナーシング研究会 第5回ベーシックセミナー

開催予定

- 【日時】 2016年9月4(日) 9:00~16:00
 - 【場所】 横浜創英大学 〒226-0015 横浜市緑区三保町1番地
 - 【内容】 “音”その癒しの力
日頃私たちが包み癒してくれる様々な音に着目し、“音”による波動をエネルギー体の共鳴としてとらえるエネルギー医学やヴォイスセラピー、音楽療法の観点から、癒しの力を探究します。
 - 【参加費】 事前申込 会員 5,000円、非会員 7,000円、学生会員 3,000円 (8/26(金)までお申込み・振込の場合)。当日申込 +1,000円
→振込先: 郵便局 00990-9-288009 日本ホリスティックナーシング研究会
 - 【申し込み先】 第20回研究会事務局 e-mail: info@jhna.jp
下記の項目をご記入の上、e-mailでお申し込みください。
 - 1) 件名 「第20回研究会参加希望」 2) ご氏名(カナ) 3) ご住所
4) 会員区分(正会員・一般会員・学生会員・非会員)
5) メールアドレス 6) 携帯電話 7) ご職業・所属先
- ※近隣にレストラン等がありませんので、各自昼食のご準備をお願い致します。

入会のご案内



- 【会員】 本研究会に賛同する医療専門職(看護師、医師、他)、補完・代替医療専門家、及びその学生、企業・施設・団体など
- 【入会手続】 ホームページ(URL:<http://www.jhna.jp>)より入会申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記事務局宛に郵送もしくはE-mailでお申し込み下さい。
- 【入会費】 3,000円
- 【年会費】
正会員(看護師または当会役員) 7,000円、一般会員(看護職以外) 5,000円、学生会員(大学院生を除く) 3,000円、賛助会員 30,000円より

NEWS LETTER-The Japanese Holistic Nursing Association, Vol.13, 2016. 日本ホリスティックナーシング研究会ニュースレター第13号

発行 : 日本ホリスティックナーシング研究会事務局 2016年3月発行
 本部 : 京都橘大学看護学部小板橋研究室内 〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34 TEL&FAX : 075-574-4251
 MAIL : info@jhna.jp URL : <http://www.jhna.jp>
 ニュースレターに関するご意見ご感想は、本江 a.hongo@soei.ac.jp 相原 aihara@hcpro.jp 迄